

### 審議会等の会議の記録

会議の名称	令和5年度 伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会
開催日時	令和5年9月22日(金) 15:00~16:00
開催場所	伊勢崎市役所 東館5階 第4会議室
出席者氏名	松村会長 山洞副会長 諏訪委員 小野委員 小林委員 神保委員 武井委員 入澤委員 五十嵐委員 織田委員 丸橋委員 事務局(小保方、高村、長竹、萩原)
傍聴人数	0人
会議の議題	「子供たちの健全育成のために、今、私たちがすべきこと、していること～いじめから子供たちを守るために～」
会議資料の内容	伊勢崎市いじめ防止基本方針、いじめ問題対策連絡協議会等条例、伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会規則、伊勢崎市いじめ防止組織図他
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>《第Ⅰ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱状交付</li> <li>2 挨拶</li> <li>3 自己紹介</li> <li>4 会議の趣旨説明</li> <li>5 役員選出</li> </ol> <p>《第Ⅱ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 伊勢崎市におけるいじめの現状と対策の説明</li> <li>2 協議</li> </ol> <p>(各委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年生(6歳)は自分たちが思う、いじめや内容については真っ白な状態で上がってくる。家庭生活が影響している部分も多く感じるが、毎月の生活アンケートや日常観察を通して、気づいたことや、起きたことに対して一つ一つ対応しているのが現状だ。</li> <li>・高学年では大人が認識しているいじめの定義をしっかりと教え、自分たちの行動が間違えていないか捉えさせ、間違えるたびに考え、そういったことを繰り返していくことで成長していく。</li> <li>・年一回の人権集会でいじめについて考えるきっかけを作っている。</li> <li>・人権集会や常時指導を行う。中学生は、自分たちでいじめをな</li> </ul>

くすために何ができるか、委員会活動や生徒会などが中心となって動いている。

- ・生活アンケートや家庭との情報交換の中で気づけるようにしている。

- ・スクールカウンセラーや相談員の力も借りて組織で解決していく。

- ・課題として仕組み・組織はしっかりしているが形骸化している気がする。例えばアンケートを担当がどうとらせるか、意識が薄くなっている気がする。いじめに対して鈍感になっていくのが心配。教員の人権感覚を研ぎ澄まされたものにし、アップデートしていく必要がある。

- ・今の子どもたちは忙しそうで家庭（親）も忙しいので素直に気持ちが出しづらいのではないか。コロナで関わりが減り、関係ない人にでも話せる場があると良いと思う。親が先生を信用していないし、親の意識が違うので先生方がやりづらそう。現状の中でストレスを感じない子の方がおかしい気がする。なんらかの形でストレス発散の場があるといい。

- ・今年度は、夏休み子供向け講座を拡充し、1,629人の子供たちが参加した。学校教育だけでなく社会教育として公民館や図書館などを会場に109講座を企画し、256人の中学生がボランティアとして絵画教室や科学教室で子供たちに教えた。

- ・地域や地域の子供たちとつながりの大切さや自己肯定感の醸成に寄与した。

- ・家庭に原因があるときに関わるのだが、いじめアンケートから虐待などの事案が出てくることもあるので十分留意してほしい。

- ・一時保護の件数は2倍に増えており、内容は虐待、家庭内暴力、警察からの通告である。背景とすると、親が忙しい、安心して生活できず、居場所がない。または孤立していて、周りとの関わりが持てないなどが挙げられる。

- ・養育困難な親が増えているので、家庭・家族への支援、寄り添って接することを心掛けている。

- ・一時保護の子はまず今後のことを保護者自身に考えてもらうようにし、子供に提示し納得したら帰るという形をとっている。

- ・法務局は人権相談、救済活動、啓発活動を行っている。

- ・市内の小中学校にSOSミニレターを配付し、出されたものについて内容によっては該当学校に情報提供している。また人権教室の開催、中学校への人権作文は縮小して学年を限定したが、出品数がとても多かった。

- ・少年の行方不明事案が増えている。年間900～1000件。そのうち伊勢崎は10%～15%を占めている。外国籍児童生徒も増えてきている。

- ・行方不明の子を早期発見するためには、学校の協力、周りの子どもたちの協力なしでは動けない。皆の力で解決していく必要があるのでぜひ協力いただきたい。

- ・コロナで接点が薄れている。親の生活苦などで、大人も子供もストレスがかかっている。民生委員の活動も縮小されてしまい、研修なども減ってしまったので、また勉強し、共有を図ってきたい。

- ・夏休みはごはんが食べられない、邪魔者扱いされて外に出されるなど、親にいじめられている子がいる。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・育成会への参加率が下がり、あえて関わるのはよそうという風潮がある。</li><li>・小さいうちから良い人間関係を築くことが大切で、攻撃的な人が増えている気がする。</li><li>・行事には母親だけでなく、父親も積極的に子供に関わってほしい。</li><li>・人権啓発に関わることを主にやっている。</li><li>・国内では人権に関する法令が進んでいる。</li><li>・人権教育は、家庭、学校、地域の連携が必要。</li><li>・信頼できる大人がいることが大切。</li></ul>
--	--